赤谷プロジェクトの環境教育に関する取り組み

赤谷森林ふれあい推進センター　神垣崇郎

地域とともに積み上げた様々な環境教育

赤谷プロジェクトでは、赤谷の森を訪れる児童・生徒や一般の方への入口となる環境教育活動を、プロジェクトの理解者や協力者を増やしていくための重要な取組に位置づけ、これまでに得られた成果を活用した様々な活動を実施してきました。

近年は国際的・国内的にも「持続可能な社会の創り手を育む教育」のニーズが高まっており、赤谷プロジェクトでも目標として掲げている「持続的な地域づくり」を達成するべく、地域の要望に応じるための環境教育プログラムの構築に取り組むことが求められました。

赤谷プロジェクトの環境教育活動事例

赤谷の森自然散策

親子どんぐり拾い

イヌワシ観察会

水生昆虫観察会

教育に対する社会のニーズ

国際　ESD（Education for Sustainable Development）

現代社会の問題を自らの問題として主体的に捉え、人類が将来の世代にわたり恵み豊かな生活を確保できるよう、身近なところから取り組むことで、問題の解決につながる新たな価値観や行動等の変容をもたらし、**持続可能な社会を実現していく**ことを目指して行う学習・教育活動。

国内　新学習指導要領（前文より一部抜粋）

これからの学校（幼稚園）には、・・・一人一人の生徒（幼児・児童）が、・・・自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにする・・・ことが求められる。

地域　みなかみ町教育行政方針（基本理念より一部抜粋）

みなかみ町教育委員会は、・・・幼児・児童・生徒並びに町民一人ひとりが夢や誇りを持つとともに、学校教育・・・などを通じ、地域の貴重な歴史的・文化的資源などを活かして豊かな感性を育み、・・・たくましく生きる心豊かな人々が暮らす**持続可能な町を目指して**教育行政を推進する。

社会ニーズを踏まえた活動のブラッシュアップ

みなかみ町の新治（にいはる）小学校で長年実施している「赤谷の森体験学習」について、2022（R4）年度に学校や教員のニーズ、児童の育みたい資質・能力を踏まえ、児童一人ひとりの興味関心を大切にするようプログラムを見直しました。

さらに、その取組を踏まえ、赤谷プロジェクトの中核三者（赤谷プロジェクト地域協議会・日本自然保護協会・関東森林管理局）と学校との役割分担、体験学習の実施時期・内容を検討するためのプロセスなどを明確化した手引書を作成し、実務者が順応的に内容を充実させながら学習活動を継続するための連携体制を構築しました。

「赤谷の森体験学習」の目的

みなかみ町立新治小学校　＋　赤谷プロジェクト
連携

- 赤谷プロジェクトに関する学習を通じ、地域の自然に愛着と誇りを持つことに繋げる
- 主体的な課題解決の資質や能力を養い、自己の生き方を考えることが出来るようにする

「赤谷の森体験学習」の改良

令和4年度の実績を踏まえ、「赤谷の森体験学習」手引書を作成

目的
- 「赤谷の森体験学習」の位置づけを確認
- 実施主体の役割分担や、プログラム作成までのプロセスを明確化

期待される効果
- 学校からの要望に応じた柔軟なプログラムを作成できる
- 担当者が変更しても持続的に継続可能
- 事前事後学習を含む、年間を通しての見通しを立てられる

令和4年度　新治小5年生の総合学習

児童の興味・関心に応じた学習体験
- 地形・水班
- 動物班
- 植物班

知りたいテーマ別に分かれ、それぞれで異なる学習体験を実施

▶ **地域の課題を検討**
- ニホンジカの増加問題

各班の成果を共有し、全体で共通する課題をピックアップ

▶ **課題の発信と対策の提言**
- 信州ESDコンソーシアム
- 赤谷の森だより

自分たちに出来る解決策を考え、様々な媒体で地域内外に向けて発信

令和5年度の「赤谷の森体験学習」

手引書に従って学校と協議し、今年度の方針を決定

	5年生　小出俣遠足	6年生　三国山遠足
実施日	5/25（木）	6/15（木）
実施場所	小出俣林道沿線	旧三国街道
昨年度からの変更点	• 総合学習の導入に位置付け、例年よりも早い時期に実施した。 • 特別支援教育を要する生徒に配慮し、引率者の増員と緊急時対応車両を配備した。	• 歴史や文化に重きを置き、それまで実施していたセンサーカメラ設置を5年生遠足で実施するよう整理した。 • ガイドによる解説よりも、生徒が現地でしかできない調査活動をメインとしたプログラムを組んだ。

今後の展望

2022年度の取組の一連の流れについて、小学校の職員研修などの場を活用し、担当者が変更しても持続的かつ柔軟に実行可能な体制の構築に取り組んでいきます。

また、地元のネイチャーガイドをはじめとする地域の自然や人の魅力を資源として活用する事業者と協力して環境教育を実施するための手法や体制について、環境教育WG（ワーキンググループ）として検討し、質の高い教育プログラムを経済活動を伴う事業にすることを目指します。

地元小学校の教員研修

都内の私立中学校を対象とした体験学習

環境教育WG

（参考）赤谷プロジェクトとは

群馬県みなかみ町北部と新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林（通称：赤谷の森）において、「赤谷プロジェクト地域協議会」、「（公財）日本自然保護協会」、「林野庁関東森林管理局」の3つの中核団体が協働して、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を進める取組。

赤谷の森全体図

赤谷プロジェクト組織体制

AKAYA PROJECT 20TH ANNIV.
2023年に20周年を迎えました